

世界難民の日「遠くて近い、パレスチナ」

～フォトジャーナリスト佐藤慧が出会ったパレスチナ～

©Kei Sato / studio AFTERMODE

ガザ地区に暮らすアマル。
自由を求めるデモでは友人、知人が負傷し、ときに命を落とす。
「本当に恐ろしいのは物理的な壁じゃなくて、精神的な壁なのよ」

■フォトジャーナリスト佐藤慧によるパレスチナ取材報告トーク

6/20 (水) 18:30~20:30

会場：天光院 多目的ホール(〒105-0011 東京都港区芝公園1-3-16)

参加費：無料



70年以上、故郷に帰れずにいる「パレスチナ難民」

6月20日は国連が定めた「世界難民の日」です。

パレスチナではイスラエル建国に伴い住む土地を追われた人々が70年以上にわたり難民として暮らしてきて、現在では500万人を超える多くの人々が困難な生活を強いられています。

「世界難民の日」にあわせて、2018年2月にパレスチナを取材されたフォトジャーナリストの佐藤慧さんの取材報告トークを開催します。

パレスチナの人々の等身大の姿

中東、パレスチナというと距離的にも文化的にも「遠い」と感じられますが、そこに住むのは、家族や友人を愛し、安全に暮らすことを望む、私達と同じ人々です。「知識」ではなく現地の人々の写真やエピソードを通して、普段のニュースでは見えてこないパレスチナを身近に感じてください。


皆様のお越しを心よりお待ちしております。

【主催】日本国際ボランティアセンター (JVC)

【協力】studio AFTERMODE/ アーユス仏教国際協力ネットワーク

【お申し込み】 下記フォームか右のQRコードよりお申込みください。

<https://ngo-jvc.info/palestine>

 日本国際ボランティアセンター





©Kei Sato / studio AFTERMODE

学校の校庭の先に見えるのは分断の壁。
壁の向こうにはイスラエル入植者たちの街が見える。

【登壇者プロフィール】



佐藤 慧（イベント登壇、写真提供）

studioAFTERMODE 所属。

世界を変えるのはシステムではなく人間の精神的な成長であると信じ、紛争、貧困の問題、人間の思想とその可能性を追う。言葉と写真を駆使し、国家—人種—宗教を超えて、人と人との心の繋がりを探求する。アフリカや中東、東ティモールなどを取材。東日本大震災以降、継続的に被災地の取材も行っている。2011 年世界ピースアートコンクール入賞。



田中 理

元国際連合パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）上席渉外官、独立行政法人国際協力機構（JICA）農村開発部企画役。開発学修士（保健計画）取得後、農作業を経て独立行政法人国際協力機構（JICA）にて JICA ボランティア、北陸支部、中東地域の事業企画、エジプト事務所等を歴任。2013 年から 2015 年まで国際連合パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）（エルサレム）に勤務し、アジア地域の政府、NGO 等との連携強化を担当。



並木 麻衣

日本国際ボランティアセンター（JVC）パレスチナ事業担当。

イラク戦争のニュースを見て「紛争下でもたくましく生きる人々の素顔を探しに行きたい」と思い、大学でアラビア語と平和構築を専攻。授業で知った「紛争地」パレスチナで暮らしてみたくなり、2006 年から 1 年間パレスチナ・イスラエルへ留学。現地に友人が増え、紛争の両側で生きる人々が抱える問題に直に触れ「日本からできることは何だろう」と悩みを深めて帰国。大学卒業後は IT ベンチャー、経理、大学などで働き、スーダン障がい者支援 NGO 事務局長職を経て、2013 年 7 月からパレスチナ事業担当。

【お問い合わせ】 日本国際ボランティアセンター（JVC）広報担当 仁茂田（にもだ）
TEL：03-3834-2388 MAIL：info@ngo-jvc.net